

# 但馬農民の子の 血が騒ぎました

～17期Mさんへ～

15期 Rさんから

昨日は突然お電話を致し、失礼しました。但馬の土に根ざした有名な農民人形の作家、渡辺うめ氏の展覧会を是非見ていただきたく面識もないお方に、お願いした次第です。

北辰会「はるけき流れ」にお書きになった文章を拝読し但馬農民の子の血が騒ぎ何度かお手紙を書きかけたことがあるのでお目にかかった事もないのに親しく思っ……。

一度目は牛に関するご記述に対してです。私の拙い作文「牛飼物語」をここに同封いたしますので見て下さればわかりますが、朝草刈や牛市の話にとっても共感しました。「牛飼物語」は俳人大沢氏の「せり落ちし牛牽かれゆく時雨空」に触発されて書いたものです。

次は親のいつもの言葉が「勉強せえ」ではなく「仕事をせえ」だったという所。仕事をよくする子が村の人から褒められ「あのお子さんを見る」と親は手本にさせていました。今の子供を見ていつもその事を思い出していたのであのくだりを読んで「そうだった。そうだった」と手を拍つ思いでした。

そして就職のこと。会社の名前はかいてありませんが三菱電機とすぐわかりました。そして、とても優秀であられたのだなあ、と思いました。当時私の学校からも選りすぐった優秀な子が二人、三菱を受けましたが二人とも合格できませんでした。私と同学年のその二人以外、その前にも後にも三菱に入った人は居らず三年後と五年後にうちの弟が神戸の川崎重工業の養成工になりましたが、三菱電機よりは易しかったのだと思います。それでも地元の高校よりは

難しいと言われ、親は鼻を高くして(貧しさの言い訳か、高校へ進学させてやれなかった後ろめたさをごまかして居たのか)いて、周囲からも上の弟は秀才と言われていました。

それゆえ、うちの学校なんかには手の届かぬ三菱とゆうことで、後日、北野で同学年に三菱の人が居ましたが、仰ぎ見る感じでなかなか話ができませんでした。卒業後同窓会なんかで繰り返している内に遠慮がなくなり、「あんたら各地のエリートの集りやから、私なんか見下げていたんでしょ」「そんな事ないって。皆、地方出やからシャイやったんや。きっと気安く話さなかったのはそのせいや。なあ、おい、そうやろ」「そやそやほんまやで」などと言ひ合いますが、通学の電車、特に下校は十三を9時10分でいつも一緒だったのに殆ど話した記憶がありません。その三菱と同じ但馬出身の北辰生が居たとは……。

「はるけき流れ」を読んで驚きと懐かしさで感慨深いものがありました。北辰会文集がもたらした新たな邂逅とでも言いますか……。何十年を経て、遠くなりゆくふるさとに回帰する想いです。「渡辺うめ農民人形展」の感想などお聞かせいただければ嬉しゅうございます。

末筆乍ご自愛祈ります。

\*編集部 この手紙はMさんへの「私信」ですが発信者のRさんの了解を得て掲載致しました。遙か時を超えて流れる北辰の水脈のひと掬に触れた気がし、Mさん、Rさんの想いにも応えたいと思いました。



渡辺うめ人形集「あぜみちの詩」北星社